



幸運に感謝し、さらなる飛躍を

理事長 船越 昇

精華町シルバー人材センターは 5,087 万円の契約を結び、この仕事を延べ 9,264 人の会員が請け負い、3,700 万円の配分金をお支払いした、というのが平成 15 年度の姿です。スタートしてわずか 1 年でこれだけの地域に役立つ仕事のできたのは、いろいろな恵まれた条件があったためだと幸運に感謝しています。

好条件の第一は（財）精華町都市緑化協会の存在です。緑化協会からはかなりの仕事をシルバーに移してもらい、緑化で働いていた登録作業員の多くもシルバーに入会してもらったので、発足してすぐに多くの仕事をこなすことができました。

第二の恵まれた条件は精華町の積極姿勢です。町長以下役場が組織をあげて「シルバーの育成」に、物心両面にわたって支援をしていただいたことです。

第三の好条件は事務局スタッフが献身的な努力で、運営を軌道に乗せてくれたことです。

もちろん、好成绩の裏には解決していかなければならない問題が山積しています。その第一は就業の場を広げ、多くの会員に働く機会を提供していくことです。平成 15 年度は延べ 9,000 人の会員が就業しましたが、実際に配分金を受け取った会員は 162 人、63.8% でした。全会員に仕事が行き渡らなかった一番の理由は、会員が希望する仕事とセンターが受ける仕事にズレが生じたことです。ミスマッチを解消するため、受注の拡大に努める一方、未就業の会員を最優先して仕事の紹介をするように心がけています。また、会員には希望職種を変更するよう勧め、技能向上を目的とした講習会の開催を準備しています。

第二の課題は、シルバー運営の基本になっている「自主・自立」「共働・共助」の考え方を会員に理解していただき、実践していただくことです。事務局依存の気持ちを無くしていただかねば、団塊の世代が入会される時代のシルバー運営はおぼつかないこととなります。

第三の課題は内、外両面にわたって組織の整備を進めることです。内に対しては、地域班、職域班の結成を急ぎ、外に対しては社団法人の設立を確実なものにして行きたいと考えています。このほか、安全操業の徹底を図り、さらに、趣味や学びの面でも会員が集い、楽しく元気に毎日を過ごせる機会を提供することで地域社会に高齢者の元気を還元していく、そんなシルバーの姿を夢見ています。

(通常総会での理事長挨拶の要約)